

震災から10年 大切な人を思う気持ちはこれからも

東日本大震災発生から10年目を迎えた3月11日、市内各地で追悼行事が開催されました。

釜石市民ホールTETTOOで開催された釜石市東日本大震災犠牲者追悼式は、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加する遺族を市内在住者に限定するなど、規模を縮小して開催。14時46分のサイレンに合わせ黙とうをささげ、参加者は故人をしのび花を手向けました。

遺族代表の鈴木堅一さんは「私自身、4人の家族を亡くした。遺体が発見されたとき、何としても家と生活を再建する、と家族と約束した。震災から10年がたち、まもなく復興し、家の再建もなされようとしているが、心から復興を感じられる日は来ないかもしれない。そんな中でも10年間、支援いただいた方々や復興に従事していただいた方々に感謝したい」と10年間の思いを話しました。

釜石祈りのパークには朝から多くの人が訪れ慰霊碑に献花し、家族の名が刻まれた芳名板に向かい手を合わせました。夕方からは根浜海岸の松林と海上に「3・11」をかたどったキャンドルやあんどんの光が浮かび、祈りの花火「白菊」が打ち上がると集まった人々は鎮魂の祈りをささげました。

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

①「3.11」の文字が根浜海岸に光をともしました／②釜石祈りのパークでは、多くの人が慰霊碑に花を手向け、手を合わせました／③釜石市東日本大震災犠牲者追悼式、遺族代表の鈴木堅一さん／④水門の閉鎖や避難誘導など、身をていして殉職した8人の消防団員の名前が刻まれる東日本大震災殉職消防団員顕彰碑に向かい黙とうがささげられました／⑤大平墓地公園の東日本大震災物故者納骨堂では、身元が判明していない方々の供養が、釜石仏教会の協力で執り行われました／⑥竹灯籠の灯りで「忘れない」の文字が浮かび上がりました（仙寿院、3月10日）／⑦鎮魂の思いを乗せたバルーンは空へ。5年前に復興の鐘付近に埋められたタイムカプセルが開けられ、今の釜石や自分に寄せた手紙の一部が紹介されました（釜石駅前広場）／⑧根浜海岸沖に打ち上げられた祈りの花火「白菊」

天皇皇后両陛下岩手県行幸啓(オンライン)

3月4日【市役所】

天皇・皇后両陛下が県内被災地の復興状況を視察されました。新型コロナウイルスの影響により、今回の行幸啓は赤坂御所と釜石市役所をオンラインでつないで実施。野田市長が釜石の復興状況をお伝えした他、市民代表としてのちをつなぐ未来館で語り部を務める菊池のどかさん、宝来館おかみの岩崎昭子さん、震災時に消防団で活躍し、自身も被災した鈴木堅一さんの話に耳を傾けていただきました。両陛下からは被災地への心配や復興へのねぎらいのお言葉を頂きました。



被災時の避難行動や、現在の語り部活動について両陛下にお話しした菊池さんは「微笑みかけていただき、温かい人柄を感じた」と話しました

ジャパンラグビートップチャレンジリーグ2021 釜石シーウェイブスRFC対近鉄ライナーズ

3月13日【釜石鶴住居復興スタジアム】

釜石シーウェイブスRFC（以下釜石）が所属するジャパンラグビートップチャレンジリーグの公式戦が近鉄ライナーズを迎え開催されました。当日は雨にもかかわらず、約800人の観衆が地元チームの応援に駆け付けました。試合は釜石のフォワードが近鉄を押し込むなど奮闘しますが、近鉄が着実に得点を重ね近鉄のリードで前半を終了。後半に入るとすぐに釜石がトライを取り釜石に流れが傾きかけましたが、近鉄のゴール前の堅い守備に阻まれ、15対36でノーサイドとなりました。集まった観衆は両チームの健闘を温かい拍手でたたえました。



後半のロスタイムに意地のトライを決めたサム・ヘンウッド選手

ローカルベンチャー2期生退任式

3月18日【市役所】

平成30年から活動し、令和2年度末で釜石市起業型地域おこし協力隊（ローカルベンチャー）の活動を終了する2期生の退任式が行われました。退任するのはゲストハウス運営に取り組んだ東谷いずみさん、仲間世通りの活性化に取り組んだ神脇隼人さん、県産木材の活用に取り組んだ境悠作さん、甲子柿のPRと活用に取り組んだ松浦朋子さんの4人です。野田市長からは修了証書が贈呈され、各隊員それぞれの活動報告と今後の展望について発表をしました。



ローカルベンチャーの任期は終了しましたが、4人それぞれが活動を続けていきます（左から境さん、松浦さん、東谷さん、神脇さん）

こどもエコクラブ『君こそ海博士だ!!』

3月20日【岩手大学釜石キャンパス】

子どもたちが自然環境について理解を深める「こどもエコクラブ」の令和2年度最後の活動が岩手大学釜石キャンパスで行われました。19人の子供たちは釜石キャンパス副所長の後藤友明さんから海の成り立ちやそこに住む不思議な生き物について学び、驚きの声を上げました。子どもたちの知識の豊富さに大人が驚かされる場面もありました。後半はドンコ（エゾイソアイナメ）を研究する大学院生の石黒智大さんの指導で解剖の実習。ハサミを使い、丁寧に魚の体のつくりを観察しました。



魚に触るのも不安な様子だった子供たちですが、感覚をつかむにつれてスムーズに作業を進められるようになりました